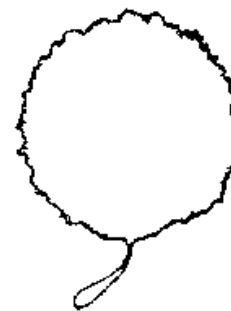


わたぼうしコンサート inながさき2024

<<作曲の部>>
作品募集
ご案内

みんな同じ空の下に生きている



～ メロディ ありがとう ～



<< 作曲の部 >> 応募用紙

◆募集内容

<作詩の部>の入選詩7編の詩に、メロディーをつけてお送りください。
7編のうち何編を作曲されるかは自由です。但し、1編の詩について1曲として下さい。

◆応募資格

長崎県在住の方で、音楽好きな人ならどなたでも結構です。

◆応募方法

CDまたはカセットテープに歌を録音して、楽譜又はコードを示した用紙を添付してご応募ください。(全曲をひとつに録音しても、1曲ずつ分けられてもかまいません。)
伴奏および楽譜のみの応募は受け付けません。
規定の応募用紙に必要事項を記入し、作品に添えてお送りください。
歌を録音したデータを mp3 形式にして、応募用紙と楽譜又はコードを添えてメールで応募もできます。

◆結果発表

2024年6月23日の選考会で入選曲を決定し、応募者全員に結果通知をお送り致します。

◆入選すると・・・

- ◇交流会に参加していただきます。
作詩者と作曲者および実行委員との交流会を7月7日(日)に行いますので参加をお願いします。
- ◇「わたぼうしコンサート in ながさき 2024」にて発表します。
9月1日(日)、長崎市民会館文化ホールにて開催する「わたぼうしコンサート in ながさき 2024」で演奏いただきます。
尚、当日の審査委員会により各賞及びわたぼうし大賞を決定します。

◆締切

2024年6月20日(木) ※必着

注意事項

- ・応募作品は返却しません、あらかじめコピーをお取りください。
- ・歌唱の都合上、詩、曲とも補作することがありますのであらかじめご了承ください。
- ・すべての応募作品に関する権利は主催者に帰属します。コンサート(9月1日)までは、発表をひかえてください。以後の発表については、事務局まで事前にお問い合わせください。
- ・7編の詩の中には、曲がつけづらいものもあるかと思えます。実行委員会としましては、できる限りすべての詩に曲をつけたいと思いますので、皆様の作曲の進行状況をお問い合わせすることが有ります。ご理解とご協力をお願いいたします。ただし、ステージ演出上、入選詩を曲なしで発表する場合がありますのでご理解をお願いいたします。
- ・発表曲に選ばれた場合、作曲者及びそのグループで当日演奏していただければと考えています。もちろん、強制するものではありませんので、応募時に演奏できるかどうかを知らせていただければ幸いです。
- ・アレンジや演奏形態についても、作曲者の方とご相談の上決定していきたいと考えています。

応募・問い合わせ先

〒851-0126 長崎市芒塚町81 吉田光浩方
わたぼうしコンサート実行委員会
TEL 080-1382-2849
FAX 095-832-0838

切り取り線

※ 受付 番号	作 品	A. 楽しい学校 B. 明日 C. 己「おのれ」 D. がんばった E. 母ちゃん F. 未来の色 G. 二十歳(はたち)のロマンス ※応募する作品名に○をつけて下さい。
ふりがな 作曲者氏名 生年月日(西暦) 年 月 日生 年齢()歳		
住 所 〒 - TEL (- -) 携 帯 (- -) FAX (- -)		
あなたのプロフィールまたはメッセージをお書き下さい。		
選考の結果、発表曲として決定した場合、9月1日長崎市民会館文化ホールのコンサートにて演奏できますか。 できる ・ できない ()		

※太枠内は必ず明記して下さい。 ※×切は6月20日です。

開催内容

楽しい学校



■催名

作詩 井村友哉（島原市・10才）

わたぼうしコンサートinながさき2024

■日時

2024年9月1日（日） 開場 13:00
開演 13:30
終演 16:00

■場所

長崎市民会館文化ホール

■後援

長崎県・長崎市・長崎県教育委員会・長崎市教育委員会
長崎県社会福祉協議会・長崎市社会福祉協議会・長崎県文化団体協議会
長崎県地域婦人団体連絡協議会・国際ソロプチミスト長崎
その他関係団体・報道機関各社

■入場料

一般 前売券 2,000円（当日2,500円）
小・中・高校生 前売券 500円（当日1,000円）

■事務局

わたぼうしコンサート実行委員会
〒850-0126 長崎市芒塚町81 吉田光浩方
TEL 080-1382-2849
FAX 095-832-0838
mail: watanaga@watanaga.com
URL <http://watanaga.com/>

すき すてきなことば
とりがいる やさしいねこ
きもちいい風
うれしいな うれしいな
とりも仲良し どうぞよろしく
たのしい学校
大好きだよ
花がある うたがある
たからものだよ
いいことあるよ
ぼくの友だち
泣いても すぐにえがお
すてきなところ
かわいいえがお
どこに行くの
心がウキウキ

今日がどんなに苦しくとも
楽しい明日を夢見る
私でありたい
ムダな日なんてない
どんな一日も
かけがえのない時間
「大丈夫、なんとかなるさ！」
明日は明日の風が吹く

今日がどんなにつらくとも
前を向いて 自分を信じる
私でありたい
ダメな人はいない
だれもが皆
かけがえのない存在
「大丈夫、なんとかなるさ！」
だれの上にも明日は来る

たとえ くじけそうになっても
「大丈夫、なんとかなるさ！」
明日はきっと幸せが訪れる

憧れの君へのメロディ
いたいけな瞳 あどけなさが残る頬
髪をなびかせ 時折 微笑んでくる
僕なりの 微笑み返し

君は不思議な魅力をもつ女性（ひと）だよ
周りからみんなが集まってきて賑やかになる
そういう光景を眺めていると
僕の表情は自然と綻び優しく微笑することができるんだ

君は優しい眼差しで
何気なく話しかけてきてくれるけど
僕は何も言えないまま 思わず見とれてしまうんだ
ふとした瞬間目が合ってしまう
颯爽と駆け抜けて行くときの横顔
このまま時間（とき）が止まってしまえばいいのに

君は夢に向かって走っている
後ろを振り返らず走っている
その背中に追いつき追い越したい
その時はもしかしたら笑顔で言えるかもしれない
“君のことが好きです”

作詩 山田 弥生（諫早市・62才）

未来の色はどんな色？
私は虹色だと思う
赤、オレンジ、黄、エメラルド、青、パープル、スマイレ
さまざまな輝きを出す虹色だと思う
虹はね、雨を反射した太陽の色なの
虹の向こうは太陽が輝いているの
これから先も楽しい事、嬉しい事もあれば
生きていくことがつらいくらいの
悲しい事、つらい事もあるでしょう
でも悲しいつらい生活おくるからこそ
小さな喜びが、大きな幸せを感じれる
思い起こせば、イジメと病気に苦しんだ人生でした
どうして、自分だけがこんなひどい目に
あわなければならないんだと、生きるのがつらい毎日でした
でも、そういう目にあったから相手の痛みが
よくわかるよ
そして、深い悲しみがあつた時
無理に立ち直ろうとしなくてもいい
無理に打ち消そうとしなくてもいい
悲しみも、私の大事な一部分だと思うから
涙の向こうは太陽が輝いて、それが反射して、美しい虹になるの
楽しい色、嬉しい色、悲しい色、苦しい色
さまざまに輝く、美しい虹色に
これから先も、悲しい事も苦しい事もあるかもしれない
でも、それに反して、楽しい事も嬉しい事もある
未来の色は、どんな色？
未来の色は、虹色
涙の雨に、まぶしく輝く美しい太陽の光が 反射した
美しい虹の色

作詩 黒木 遥（佐世保市・22才）

今まで何を焦ってきたのだろう。
さびついた鉄棒に必死にしがみついて、
それで自分をこびしてがんばってきたんだ。
報われない努力は、結果じゃなくて肉体になる。
そして私は、何を怖がっていたのだろう。
続ける厳しさ？ 意味のない恋？
それらはきっと味わった分だけ、
笑える日々がおとずれるのだろう。
今日の気分は、必然とか運命を待っていたくないの。
私でありたい。私が主人公なんだ。
時は、カチカチ音を鳴らすだろう。
それでも私は儚く燃えつく存在でありたくないの。
いつかとかこれからじゃない。今私は、ここで生きる。

今まで何を泣いていたのだろう。
壊れかけたブランコに執着する日々、
それで己で何かなしとげたかっただけなんだ。
かれた花は、水じゃなくて、愛をほしがっている。
きっとあなたたちもそうだった。
今日の気分は過去とか未来とか考える時間じゃないの。
私でありたい。私が主人公なんだ。
残酷に死に近づく音がする。
それでも輝ける存在でありたいの。
いつかとかこれからじゃない。
今、私は、ここで歌う。

がんばった

作詩 堀 川 奈津希（佐世保市・31才）

椅子に座っての活動が苦手でした。
すぐに席をはなれていました。
道具の準備が苦手でした。
片付けも嫌で泣いた事もありました。
がんばって作った作品を、手放す事も
嫌で泣いていました。
それでも毎日がんばりました。
少しずつ、少しずつがんばりました。
一日がんばった後に、自分で「がんばった」と
言う事ができるようになりました。
今年、自分の作品を作品展に出しました
飾ってある自分の作品はキラキラしていました。

母ちゃん

作詩 美吉田 美恵子（大村市・56才）

母ちゃんはいつも私をはげましてくれます。
何があっても私の味方になってくれる
スーパーウーマンです。
子供の時は、病気やけがばかりしていました。
すぐにとんできてくれます。
いっぱい心配かけたので
うーんと幸せになってほしいです。
たまに口ごたえをする私の話をきいてくれます。
お父さんが亡くなった時
お母ちゃんは、「美恵子はかわいそか」といいましたが、
お母ちゃんが一番つらくて悲しかったとよネ
と思います。
私がふつうに生まれてくればよかったですが、
生まれつき未じゅくじで、障がいがあったから
頭もよくなかった。
普通の生活が出来なかった。
みんなと違うというのをずーとぎもんに
かかえながら生きてきました。
それで沢山の人々からのいじめにあいました。
それでもお母ちゃんは
「美恵子が大好き」と云ってくれます。
そんな母ちゃんが日本一大好きです。